

新標本設計(案)の考え方

標本抽出方法	層化等確率無作為抽出	
層化基準	産業分類(6区分)、売上高階級(2区分)、都道府県(47区分)	
	産業分類 (※1)	「建設業」、「製造業」、「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「サービス業(上記産業を除く)」
	売上高階級	都道府県、産業分類ごとに売上高90%点を算出し、各個人企業の売上高が売上高90%点未満か否かで区分
標本配分 (※2)	産業分類	均等配分とし、産業分類別結果の精度向上を図る
	売上高階級	均等配分とし、売上高の高い個人企業の抽出率を高くし、結果の精度向上を図る (2頁「売上高階級の層化効果」参照)
	都道府県	都道府県の規模(個人企業数)で傾斜配分し、全国結果の精度向上を図るとともに、都道府県別結果の精度確保も図る
標本規模	層内	40以上
	都道府県	480以上(=40以上×6区分×2区分)
	全国	約3万7千(現行の約10倍)

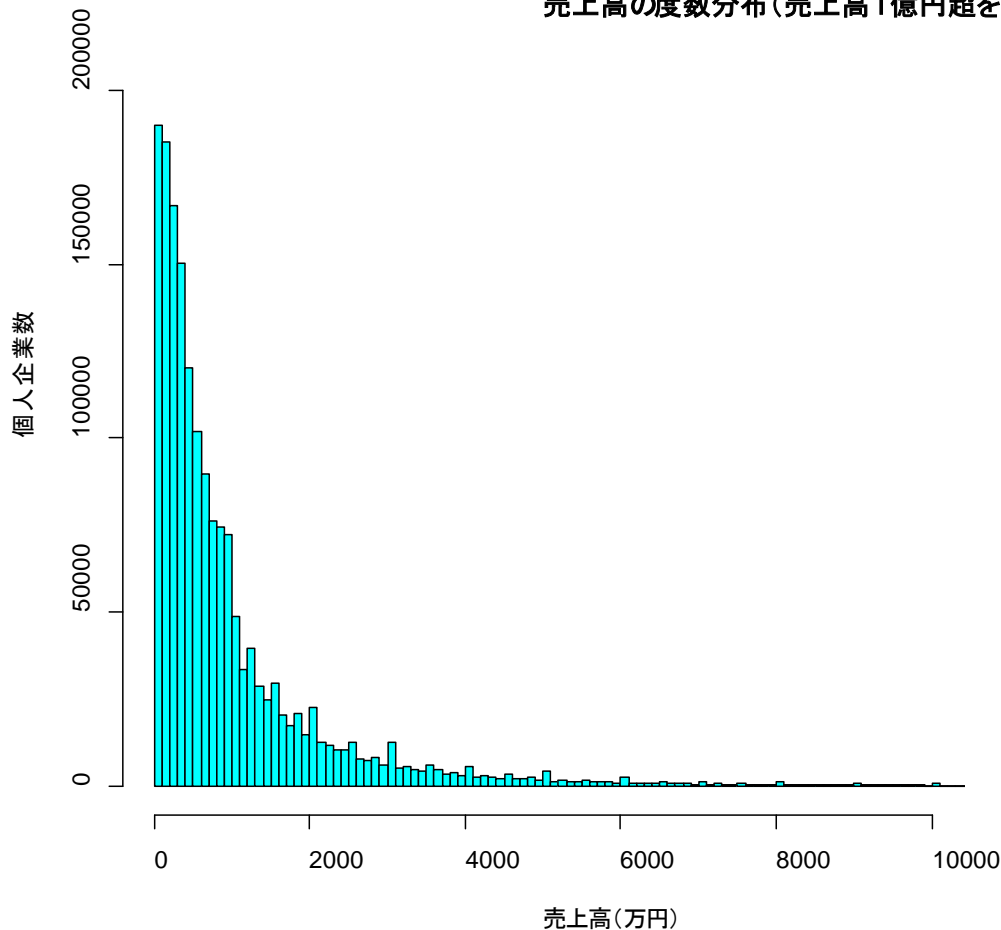
※1 「サービス業(上記産業を除く)」は、「情報通信業」、「運輸業、郵便業」、「金融業、保険業」、「不動産業、物品賃貸業」、「学術研究、専門・技術サービス業」、「教育、学習支援業」、「医療、福祉(病院、一般診療所、歯科診療所を除く)」、「複合サービス事業」及び「サービス業(他に分類されないもの)」

※2 3頁「層内の個人企業が少ない場合の対応(案)」参照

売上高階級の層化効果

売上高は右に裾が長い分布となっているため、結果精度の向上を図るためには、売上高の高い個人企業の抽出率を高くする必要がある。なお、売上高を分位点で区切る場合、最も結果精度の向上が見込めるのは90%点であった。

売上高の度数分布(売上高1億円超を除



売上高の分位点別標準誤差

売上高階級の区分	分位点(万円)	標準誤差(万円)
区分なし	---	43
75%点	1215	26
80%点	1510	23
85%点	1991	21
90%点	2670	19
95%点	4243	20
< 平均値 >	1243	

※売上高の分布、分位点、標準誤差、平均値は、全国の調査産業計。また、標準誤差は、現行標本規模(3,680)で算出。

層内の個人企業が少ない場合の対応策

- 案1) 売上高階級の分位点90%以上の標本配分の割合を減らす
(例 標本配分の割合(90%以上:90%未満)を50:50→40:60にする)
- 案2) 売上高階級の区分を分位点90%から下げる(例 分位点を85%にする)
- 案3) 産業分類の層を更に統合する
(例 建設業と製造業を統合する)
- 案4) 近隣の都道府県をグループ化する